

# アルゼンチン農業概要

(2011年1月)

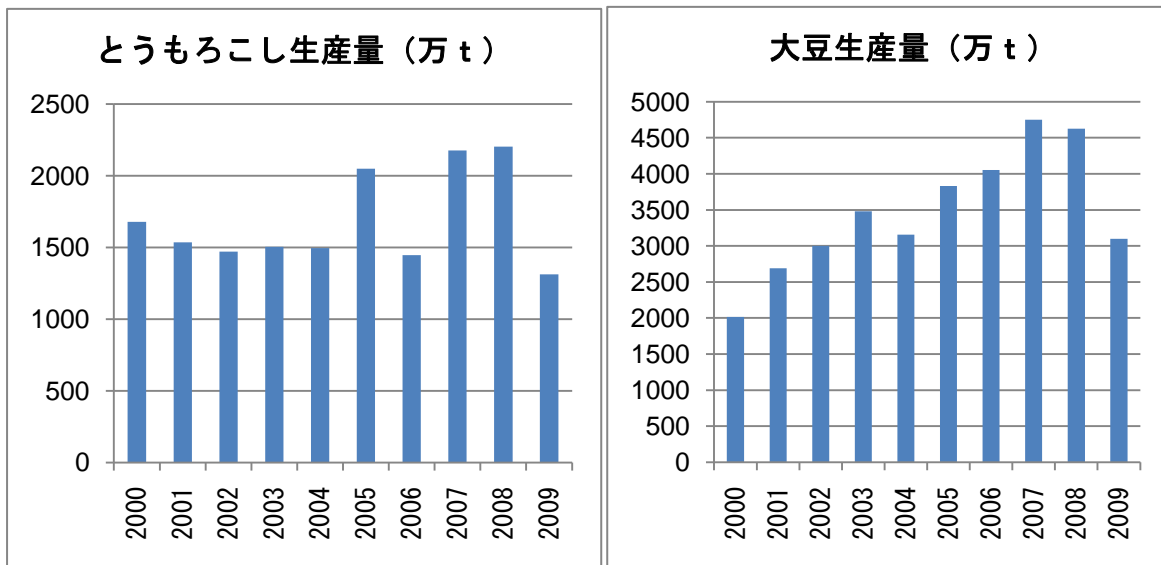
## 1. 農業生産（とうもろこし、大豆等）

### ①国土利用状況（2008年 FAO農林水産統計（FAO STAT））

- ・国土面積 : 27,804 万ヘクタール(100%)（日本の約7倍）
- うち農用地 : 13,285 万ヘクタール( 35%)
- うち耕地面積 : 3,300 万ヘクタール( 12%)

### ②生産品目・生産量

- ・農業総生産額のうち、27%が大豆、7%が小麦、6%がとうもろこし（2005年）。
- ・とうもろこしの生産は年によって変動があるが、1500万トン前後で推移。
- ・大豆の生産は、2009年は不作であったものの、概ね10年で倍増。
- ・主要生産地域における干ばつのため、2009年の生産量は、前年と比較して大きく減少。
- ・とうもろこし : 1,678万トン(2000年) → 1,312万トン(2009年)
- ・大豆 : 2,014万トン(1999年) → 3,829万トン(2005年)  
→ 3,099万トン(2009年)



資料:FAOSTAT

資料:FAOSTAT

### ③とうもろこし及び大豆の品質

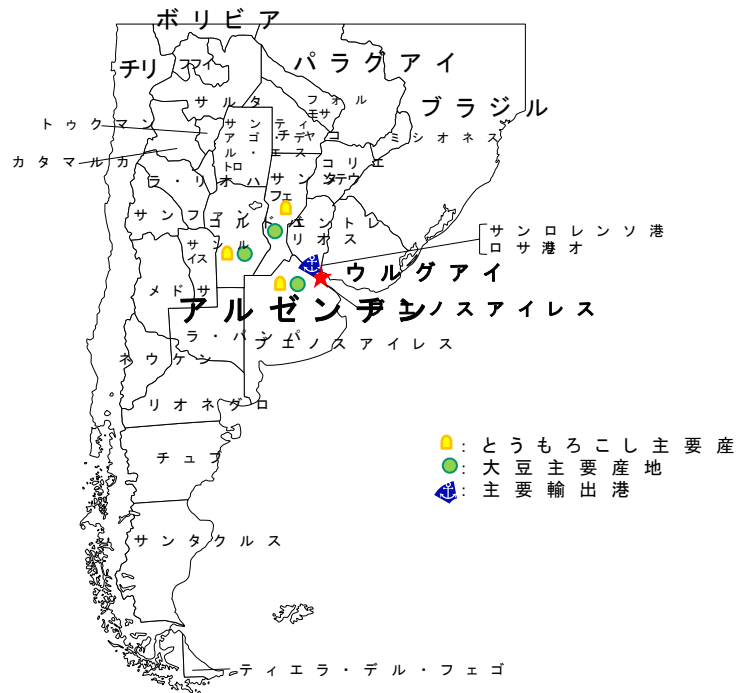
- ・とうもろこしについては、フリント種、デント種を交雑したハイブリット種が栽培されており、主として、家畜飼料用。米国産デント種に比べ、カロチンを多く含むことから育成された家畜の脂肪が黄色く着色される。
- ・1996年に除草剤耐性をもつ遺伝子組換え（GM）大豆の栽培が承認された後、導入が急速に進み、現在99%がGM品種であり、搾油用。また、GM品種導入に伴い、作付面積や生産量は急増。大豆油粕は、ブラジル産及びパラグアイ産よりもタンパ

ク質含有量が低い。

- ・有機農産品制度があり、我が国有機JASと同等性が認められている。

#### ④とうもろこし及び大豆の主産地

- ・とうもろこし及び大豆の主要生産地は、ブエノスアイレス州、コルドバ州及びサンタフェ州。



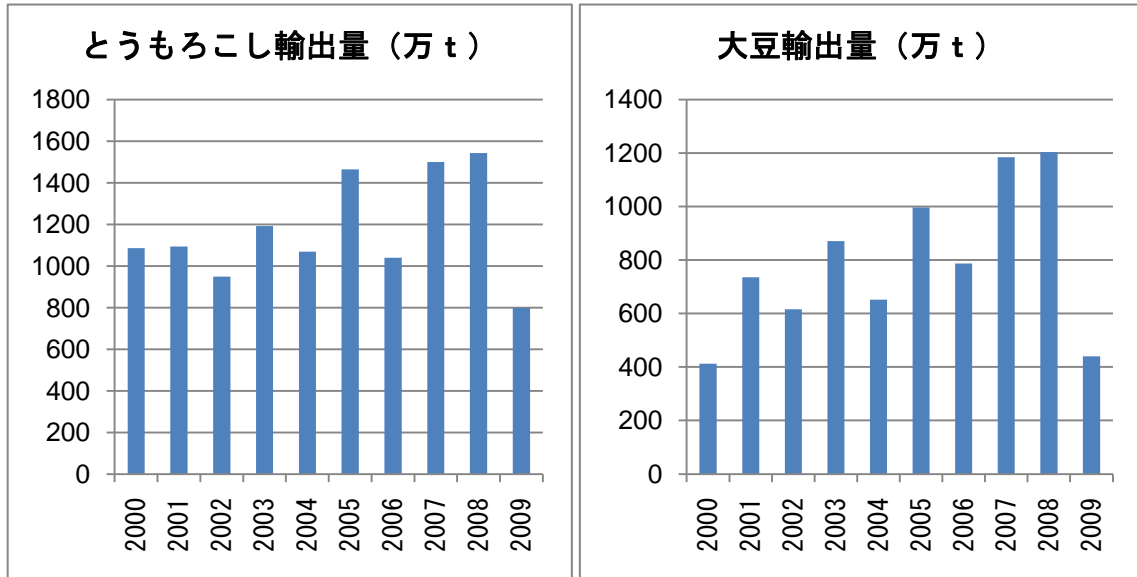
## 2. 集荷・輸送・輸出ルート及び施設

- ・農産物の輸送方法は、国内輸送の場合、84%がトラック、14.5%が鉄道、1.5%がはしけ、輸出の場合、90%が海運、7%がトラック、3%が鉄道及びはしけ
- ・大豆の輸出については、サンロレンソ港とロサリオ港（いずれもパンパ地域の中心地、パラナ川に面し、幹線道路に近接。）を經由するものが 97%を占めており、大豆加工施設もこの地域に集中している。かつては、ロサリオ港が中心であったが、1980年代半ば以降はサンロレンソ港の規模拡大が顕著。サンロレンソ港には、12箇所の農産物輸出用ふ頭があり、穀物メジャー等により管理
- ・パラナ川は、水深10m程度であり、パナマックス級バラ積み船を満載することはできないため、8割程度の積載率でパラナ川を下り、大西洋に面したブエノスアイレス州南海岸のケケン及びネコチア港等で、残ったスペースに、追い積み
- ・我が国向け輸送航路としては、パナマ運河経由が主なルートで、所要約40日程度

## 3. 輸出

- ・とうもろこしは、年によって変動するものの、概ね1,000万トンから1,500万トンの間で推移。
- ・大豆は、2000年から2008年まで輸出量を伸ばし、2000年と比較して3倍。
- ・2009年は、主要生産地域における干ばつのため、とうもろこし及び大豆の生産量が大幅に減少したことにより、輸出量も大幅に減少。

- ・とうもろこし：1,085万トン(2000年) → 1,464万トン(2005年)  
→ 798万トン(2009年)
- ・大豆：412万トン(2000年) → 996万トン(2005年) → 440万トン(2009年)



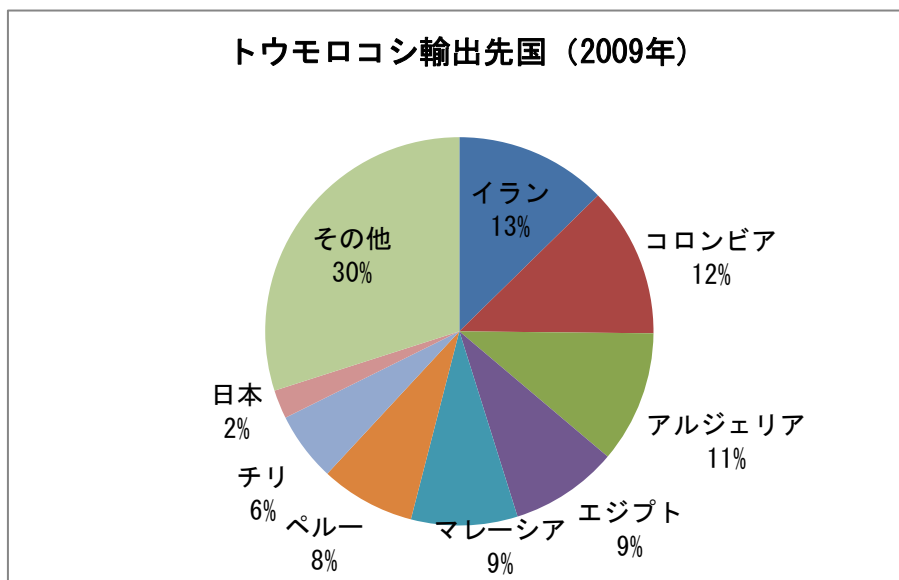
資料:2000-2007 FAOSTAT

資料: 2000-2007FAOSTAT

2008-2009 アルゼンチン動植物衛生機構

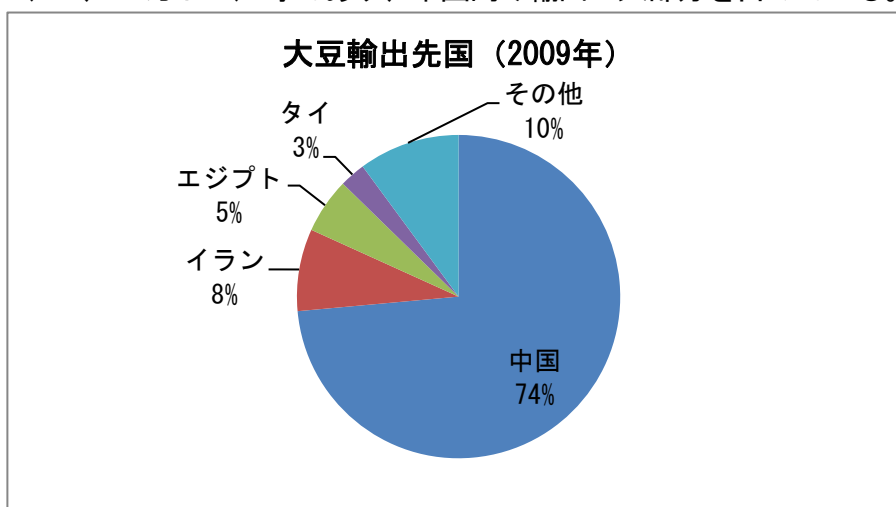
2008-2009 アルゼンチン動植物衛生機構

- ・トウモロコシの輸出先国については、イラン (13%、101 万トン)、コロンビア (12%、100 万トン)、アルジェリア (11%、88 万トン) 等、中東、南米、アフリカ地域を中心に、多角化されている。



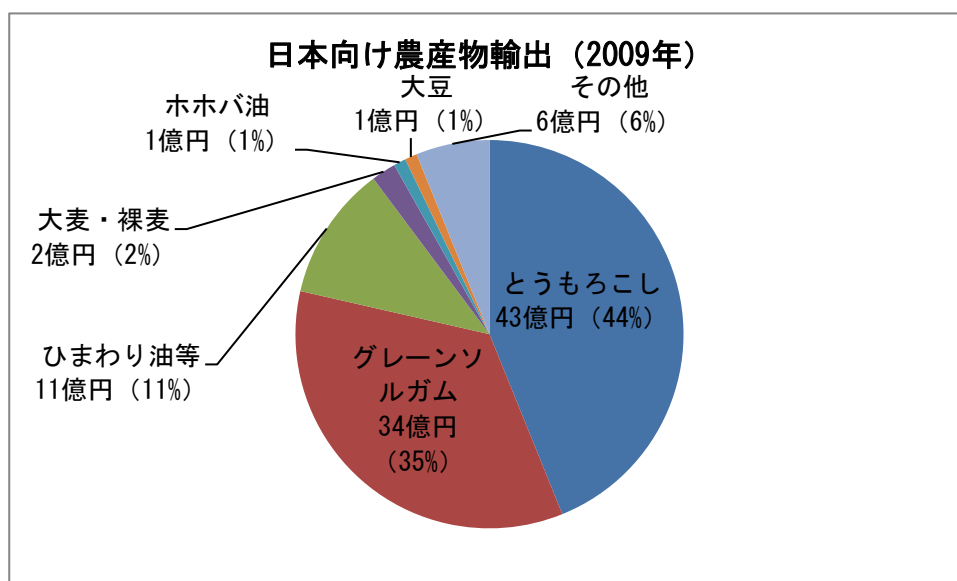
資料：アルゼンチン動植物衛生機構

- 大豆の輸出先国については、中国（74%、324万トン）、イラン（8%、36万トン）、エジプト（5%、24万トン）等であり、中国向け輸出が大部分を占めている。



資料：アルゼンチン動植物衛生機構

- アルゼンチンから日本向けに輸出されている農産物については、とうもろこし（43億円、44%）、グレーンソルガム（34億円、35%）、大麦・裸麦（2億円、2%）等、飼料用穀物が大部分を占めている。



資料：財務省貿易統計

#### 4. 日系企業の動き

- 全農は、アルゼンチン農協連（ACA）と、1969年以来穀物輸入の協定取引関係を持っており、農協系列にとって、ACAは重要な飼料原料輸入先となっている。
- 2009年5月、丸紅株式会社は、アルゼンチンの大手総合食品企業モリノ・カニユエラス社と包括提携意書を締結し、各分野において協力関係を構築することで合意。モリノ・

カニューエラス社は、地場に広が穀物サイロネットワークを強みとした、独立系最大手の穀物サプライヤーであり、丸紅は、今回の合意書により、調達における購買力の強化、近年一層旺盛な中国需要の取込み、加えて欧州向け販売拡大等を目指す。

- ・ 双日株式会社は、アルゼンチンにおいて、大豆等の農業生産を行う事業会社（双日ブエナスティエラス・デル・スール社）を双日グループの100%出資で設立し、アルゼンチンの大手農業事業運営会社であるカセナベ社と協力し、2010年穀物年度から大豆等の穀物を生産・販売する農業事業を開始した。2010年度には、約5億円を投資し、アルゼンチン中部の湿潤パンパ地域にて約1万1千ヘクタールの土地で、大豆、コーン、小麦など約3万トンの農作物を目指している。本事業に対しては、農業事業としては初めて、（独）日本貿易保険の海外投資保険が適用されている。
- ・ 株式会社ギアリンクスは、アルゼンチン国内に4か所の農場（約1,265ヘクタール）の農場を取得し、有機農法により大豆や小麦等の穀物を生産し、日本向けに輸出している。

## 5. 国際協力

- ・ 現在、国際協力は、アルゼンチンは既に高い所得水準を達成しており、農業分野で実施中のプロジェクトは技術協力が中心（一人当たりGNIが7,570ドル(2009年世銀)）。

### <主な技術協力プロジェクト>

- 貧困人口向け食糧安全保障プロジェクト：2008年10月～2012年10月
  - ・ アルゼンチン政府は、1989年に全国の貧困家庭による小規模な野菜生産及び多様な食糧の自給を目的とした、PROHUERTA（食糧自己生産）プログラムを設立した。本プログラムは、アルゼンチン各地で重要な役割を果たしているが、この成果を他の中南米地域諸国に普及し、対象国における安全な食糧供給政策立案に係る知識と技術水準の向上を図るためのプロジェクト（第三国集団研修）を実施。
- 先住民を通じた森林資源持続的利用プロジェクト：2006年3月～2010年3月
  - ・ アルゼンチン北部からボリビアやパラグアイにまで至るグランチャコ地域（亜熱帯・低湿地帯）において、森林資源の破壊が進んでおり、殊に近年では大豆生産のための伐採が急速に進んでいる。このため、森林破壊の被害を最も直接的に受けている先住民（トバ族）フォルモサ州西部の先住民族など小規模農林業者が、森林資源をより効率的・効果的・持続的に利用する技術を会得し、することで、することで、環境破壊と貧困の悪循環を改善することを目指すプロジェクトを実施。
- 植物ウイルス病防除管理プロジェクト：2006年4月～2011年3月
  - ・ 2000年から5年間、第三国研修「植物ウイルス病の診断と同定」が実施され、周辺国から52名の研修員を受入れた。2003年度に実施した終了時評価調査の結果においては、元研修員の大部分が、所属先機関において習得した技術・知識をセミナー開催、第三者へのサービス提供等にて活用・普及されていることが確認されたほか、研修員所属先各機関より、同研修の継続が強く要望されたため、中南米諸国における植物病理学分野における病害防除技術の更なるレベルアップを図り、作物の

生産性を向上させるためのプロジェクト（第三国集団研修）を実施。

6. 輸出規制等、WTO加盟

- ・2002年3月から、とうもろこし、大豆、大豆油等に対する輸出税を導入。現在、税率はとうもろこし20%、大豆35%（輸出登録制度については、現在在外公館を通じて調査中）。
- ・1995年1月1日、WTO加盟。

【参考文献】

農林水産政策研究所 中村敏郎著「アルゼンチンの農業及び農産物輸出インフラの状況」  
(Primaff Review No. 33、2009年)

【参考インターネットサイト】

<http://faostat.fao.org/>

<http://www.customs.go.jp/toukei/info/index.htm>

<http://www.nochuri.co.jp/report/pdf/n0809re2.pdf>

[http://gwwweb.jica.go.jp/KM/KM\\_Frame.nsf/NavIndex?OpenNavigator](http://gwwweb.jica.go.jp/KM/KM_Frame.nsf/NavIndex?OpenNavigator)

<http://www.marubeni.co.jp/news/2009/090529.html>

<http://www.sojitz.com/jp/news/releases/20101117.html>

<http://www.gialinks.jp/>